

情報活用能力の育成

I 研究の内容

今日、情報化社会が急速に進む中、学校教育においては、子どもたちに情報活用能力を育成することが急務とされている。同時に児童への指導のためには教員の指導力の向上も求められている。

本部会では上記テーマを設定し、児童の情報活用能力の育成と教員の指導力向上を目指し研究を進めた。

情報活用能力のとらえ方

- ①情報活用の実践力
- ②情報の科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

1 研究の方法

- (1) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った授業実践について研究し、研究協議を行う。
- (2) 先進研究のモデルカリキュラムを参考に、学年1～2時間の内容で3・4・5・6年の情報モラルカリキュラムを作成する。
- (3) 部会員の情報活用能力を高めるための研修を行う。

2 研究の具体的内容

(1) 授業研究と検証

- ① 9月1日 第5学年 総合的な学習の時間「見分けよう、正しい情報を」

授業者 山田 勝博 教諭（三富小学校）

ア情報教育における目標

- ・なりすましやネット上の問題点を知り、問題をおこさない知識や態度を養う。

イ内容

実際にコンピュータを使いブログ等を体験させること、その中でなりすましやネットを使った悪口の書き込みが起こることを経験させたい、という考えで授業を進めた。

クラスの中でも約8割の児童が携帯電話を利用できる状況で、その内約7割の児童が使用についてのルールがない状況の中で、実際にブログへの書き込みを体験することができた。悪口を書かれた人の気持ちを考えることができ、なりすましやネットいじめについて理解することができ、有意義な実践となった。

パソコンについても、携帯電話についても児童が実際に使用するのは、家庭や学校の外の場である。家庭との連携を取りながら情報モラルを進めていくことが必要である。

- ② 2月9日 6学年 総合的な学習の時間「有害サイトに気をつけよう」

授業者 川崎 剛 教諭（祝小学校）

ア情報教育に関わる目標

- ・不適切な情報に出会った時は、大人に意見を求め適切に対応し、危険に近づかない態度と判断力を養う。

イ内容

有害サイトには、どんなサイトがあるか確認した。詐欺サイト、犯罪サイト、アダルトサイト、出会い系サイト、悪口サイトの概要をつかみ、それぞれの問題点を考えさせたり、確かめさせたりした。

実際に教育用模擬サイトを使い、対処法について再確認することができた。（フィルタリングをすること。危険な情報を見ないこと。心配な場合はすぐに大人に相談すること。悪質な場合は警察に相談すること。パソコンの使い方や、インターネットの見方について、家族で約束を決めること。）

有害サイトなどの不適切な情報に対して、どのように対処するのか理解することができ、有意義な実践となった。学校だけでは限界があるので、家庭と連携して取り組んでいくことが重要である。

(2) 3・4・5・6年の情報モラルカリキュラムの作成

- ・先進研究のモデルカリキュラムや今までの授業研究を基に、学年1～2時間の内容で3・4・5・6年の情報モラルカリキュラムを作成した。

(3) 情報活用能力を高める研修

- ・フリーソフト（計算プリント自動作成、一覧印刷、サウンド編集など）の紹介や活用の仕方の学習会と、各学校で使用している通信表の環流などを行った。

II 成果と課題

1 成果

- ・2回の研究授業を通して、情報活用能力（情報モラル）を高める方法を検証できた。
- ・どの学校でも活用できる情報モラルカリキュラムを作成することができた。
- ・情報モラルの指導案作りを通して、内容を確認したり、学年における指導内容や系統性などを研究したことにより、情報モラルに対する理解も深まった。

2 課題

- ・授業研究を行う上で、教科の目標とともに情報活用能力における目標もより明確にしていくなかで、指導方法について研究していく必要がある。
- ・通信表や要録、出席簿、校務処理の効率化につながる情報、その他、授業に使用する資料・サイトなど、有益な学習材等を交換しあう機会を来年も設けてほしい。
- ・作成した情報モラルの指導案をどう広め、どう活用していくか。他の先生方へ発信していく手立てを考えていくことも必要である。

III 研究の成果物

- ・小学校3～6年の情報モラルカリキュラムの授業案

(部長 阪本 辰彦)